

関釜航路と朝鮮史

下関市立名陵中学校一年二組
瀧口 ひかり
発行日 令和元年十月三十日

寿司屋のネタが勢揃い！



レアな自動販売機？

関釜航路（かんぷこうろ）とは、下関港と韓国の釜山港を結ぶ国際航路のことです。日本船籍の「はまゆう」と韓国船籍の「星希（ソンヒ）」の二隻が下関と釜山を毎日行き来している。関釜フェリー「はまゆう」は、旅客定員四百六十名で、積載できる貨物量は四千四百五十トン、全長は百六十二メートルある。乗客のほか、鮮魚や野菜といった生鮮食品、電子部品や自動車部品、完成自動車などが運ばれている。

関釜航路は日韓友好の架け橋

コラム1 関釜航路は船？ 鉄道？

関釜航路と関門航路の開設にともなって大正3年に造られた岸壁は、下関鉄道棧橋と呼ばれた。長さが562mもあったこの大岸壁には、戦前から戦中にかけて我が国の優秀船として海運界に注目された7千トンから8千トン級の関釜連絡船が就航し、多くの人々に愛され親しまれた。関釜航路は、実は明治39年から日本国有鉄道が所有し、東京から下関を経て釜山へ、さらには南満州鉄道、シベリア鉄道を経由して西欧諸国に至る大陸横断ルートの一部でもあった。関釜航路は、連絡船で結ばれた船の航路だが、鉄道会社が所有し運航していたため鉄道であったともいえる。



鮮食品、電子部品や自動車部品、完成自動車などが運ばれている。生鮮食品として運ばれている魚介類の内訳を見ると、北海道産のホタテを輸出したり、韓国産のアワビやアサリ、冷凍したマグロなどを輸入したりしている。



下関港に入港した関釜フェリー「星希」

JR下関駅の近くにある下関港国際ターミナルでは、自動販売機や案内板、ごみ箱などにハンガルの文字や中国語、英語が書かれており、外国人観光客も利用しやすい施設になっている。フェリーが下関港を出航するのは十九時四十五分。毎日、夕方になると、多くの人たちで賑わっている。

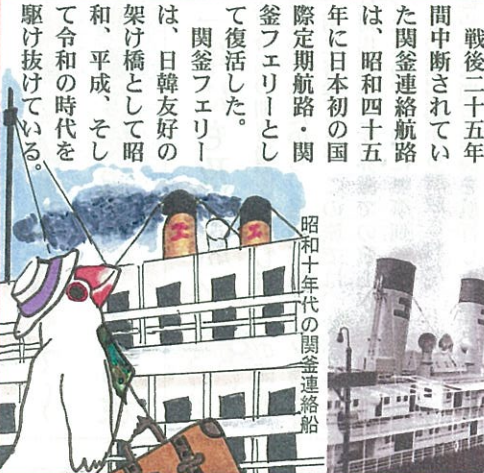


賑わう下関港国際ターミナル

関釜航路ヒストリー 〜五つの時代をまたぐ船〜

日本の玄関・下関港

明治三十四年に山陽鉄道が下関まで延伸され、馬関駅（下関駅）が開業した。初めて見る汽車に、下関の人々は驚きと喜びの目をみはった。その四年後の明治三十八年に関釜連絡航路が開かれると、東京から鉄道を利用して下関へ、下関から関釜連絡船で釜山へというルートができ、多くの人や物、情報が集まる国際都市になり「日本の玄関」と呼ばれた。当時、関釜連絡船は水深が浅かった岸壁から離れた所までしか近づくことができず、乗客も荷物も小さな船に乗せて運ばなければならなかった。その後、大正三年に新しい棧橋が造られ、接岸することができるようになった。昭和に入ると、最盛期には年間三百万人を超える人々を輸送したが、太平洋戦争が勃発すると米軍機や米國潜水艦の攻撃を受け、ほとんど連絡船が沈没した。



昭和十年代の関釜連絡船

室町時代に関釜航路？

日本と朝鮮を結ぶ港・下関

一四一三年、まだ日本が室町時代だった頃、朝鮮国王からの使節が將軍の足利義持を訪ねるために釜山から下関に船でやって来た。この時の朝鮮国王の目的は、倭寇の禁止要請と日本の国情探査だったが、使行途中に正使が発病したため京都にたどり着く前に中止となった。室町時代に朝鮮国による通信使の派遣は合わせて六回行われたが、京都までたどり着いたのはわずか三回だった。もし、この朝鮮通信使が朝鮮から日本へ派遣されることがなかったら、関釜航路は存在しなかったのかもしれない。

日韓交流を支える関釜フェリー(株)

「はまゆう」西村 正勝 船長に聞く

「船長の仕事で一番大変なことは何ですか？」
日本には四季があります。それぞれの季節で風の吹き方、雨の降り方が異なります。また、海上模様も変化します。例えば、春には海上では霧が発生し、何も見えなくなります。梅雨には大雨が降り、夏から秋にかけては台風が到来、冬には大陸からの強い季節風が吹きます。船の運航は、自然の影響を大きく受ける為、毎日同じではありません。自身の経験と、天候の変化を予想して運航することが大切です。

「はまゆう」の自慢は何ですか？」
当社の「はまゆう」は、日本と韓国を結ぶ国際定期航路のフェリーで最も歴史のある会社の船舶です。来年、当社は就航五十周年を迎えます。長年、日本と韓国の交流を支えている事が自慢です。

「釜山の魅力は何ですか？」
釜山は約十五年前から高層ビルが多く建設されています。古い市場や商店も多く残っています。新しい街と古い町が混在しているの、面白いと思います。海上から見える港の夜景がとても綺麗です。街の高台から見る夜景も綺麗で、魅力があると感じます。



下関港国際ターミナルに接岸した関釜フェリー「はまゆう」

